

■令和4年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
令和4年4月現在	課題 ・転入職員、新採用職員に対するブロックでの取り組み内容を周知する。 ・旧蒲生小、旧蒲生第二小の取り組みを踏まえた、蒲生学園としての取り組みや進捗状況をその都度周知し共有する。		

※計画書の見方

○「進捗状況」について………A:検討中 B:着手済 C:R3から継続 D:令和4年になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1)目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A	ブロックの共通する児童生徒像 「自ら課題を求め、目標に向かって進んで努力する児童生徒」
		B	学校独自の児童生徒像 学校教育目標
		C	「よい子」「強い子」「考える子」を目指し、
		D	「おはよう」学校 「お…おもしろいやりをもち、「は」…はいとへんじをします。「よ」…よくまなび、「う」…うんどうもがんばります。 まいにち「おはよう」と、元気に登校します。
2	身につけさせたい 資質能力	A	ブロックでつけさせたい資質・能力 【9年間でつけたい力】 ◎は、南中ブロック重点指導項目 ○問題から課題を見だし、その解決に向かって努力する力
		B	◎学習を見通し、多様な関わりの中で学習を深め、自分の考えを「伝える力」「書く力」 ○各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学習の成果を生活に生かす力
		C	学校でつけさせたい資質・能力 自分の考えをもち、言葉で表す力
		D	友達と考えを伝え合う力 学んだことを、生活に生かす力 「表現力」「学びに向かう力」

3	合同研修組織の設置	合同研修組織部会名等 小中一貫教育推進委員会 (構成)3校の校長・教頭・主幹教諭 小中一貫教育チーフ部会 (構成)教頭・主幹・研修主任・部会チーフ 教科別授業研究チーム 算数・数学授業改善チーム 家庭学習充実チーム 生活規律定着チーム 小中・小小ふれあいチーム 特別支援充実チーム ① 教科別授業研究チーム ・【書く】【話し合う】【発表する】授業づくり ② 算数・数学授業改善チーム ・【書く】【話し合う】【発表する】授業づくり ③ 家庭学習充実チーム ・家庭学習の手引き作成・配布・活用 ・学習ノート、掲示物、学習時間の見える化 ④ 生活規律定着チーム ・9年間を見通した授業規律の確立 ・中学校の生徒指導に長けた教員による小学校訪問及びアドバイス ⑤ 小中・小小ふれあいチーム ・中学校生徒会が小学校を訪問し、朝会で3つの約束を紹介 ・作品交流 ・中学校への体験入学(小6)、中学校探検(小5)実施 ⑥ 特別支援充実チーム ・特別支援学級の児童、生徒の学習内容等の連携
		学校独自の部会名等 ①教科別授業研究チーム ②算数・数学授業改善チーム ③家庭学習充実チーム ④生活規律定着チーム ⑤小中・小小ふれあいチーム ⑥特別支援充実チーム ・【書く】活動の重点化 ・【書く】【話し合う】【発表する】場面を学習過程に紐込む ・各教科で、板書やノート指導の統一 ・ICT(学習支援ソフトやノート)の活用定着 ・9年間を見通した授業規律の確立 ・中学校の生徒指導訪問及びアドバイス ・不登校、長期欠席児童に対する「総合的な不登校」の対策 ・中学校生徒会が小学校を訪問し、朝会で3つの約束を紹介 ・作品交流 ・中学校への体験入学(小6)、中学校探検(小5)実施 ・特別支援学級の児童、生徒の学習内容等の連携 ・通常学級に在籍する「特別な支援を要する児童」への組織的な対応 ・総合的な不登校への対応 D:4月11日管理職による小中一貫教育推進委員会開催→令和4年度の研修の大枠について確認。 D:4月22日小中一貫教育チーフ部会開催→各チームによる具体的な活動を決定。 D:4月26日小中一貫教育三校合同全体研修会開催 →今年度の研修の方向性と各部会での活動内容の確認。 D:新型コロナウイルス感染症予防を鑑み、交流活動の見直しを図る。 D:(仮称)蒲生学園新設に向けて、蒲生小学校との連携を深める。

(2)小中一貫教育7つの取組

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
4	(授業における8つのポイントの活用) 学習過程の工夫と学習形態の工夫	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など 【板書】課題、日付、教科書等のページ、単元名を明示する。 【ノート指導】板書に対応したノート指導、日付とページを書く、話し合い活動を記録するスペースの確保、6年時の国・算・理・社のノート形式を中学校に伝達する。 【話し合い活動の充実】小学校はこれまでの話題指導を継続、中学校は教師用話し合いマニュアルを作成する。小学校での話型指導のシートを中学1年時に確認する。 ◎令和4年8月に小中合同教科部会を実施予定。 【どのような工夫をしているか】 ○ペア、グループでの話し合いをねらいに応じて計画的に行う。 【共通理解の内容】 ○小学校で定着している話型指導資料から、中学校ではこれを活用し、振り返りは小学校同様行うが、話型にとらわれず、話し合いの流れをつかんで話すこと、条件を踏まえて話を進めること、役割分担を明確にして話し合いを進めることに留意する指導を進める。各校の取り組みは資料提供を積極的に行い、改善を図る際の参考とする。 ○新設した『教科別授業研究チーム』で南中学校の教員の専門性を生かした、小学校での各教科指導の向上を行う。理科・社会等、まだ小学校での研究が深まっていない教科の授業について、板書・ノート指導の実例を提示する。

4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼1 【書く】【話す】【発表する】活動を組入れた学習過程の定着に力を入れてきたが、児童は、【書く】【話す】【発表する】活動をしていると答えた割合に課題がある。 ＊令和3年度越谷市授業改善・学校生活アンケート調査結果より 授業づくり(2)・・・「あてはまる」の回答 ▼2 自分の考えを持ったり、思いを発信したりするための基礎的な知識や技能が定着していない。 ＊令和3年度埼玉県学力学習状況調査結果より ▼3 学んだことを活用する問題に対応ができない。 ＊令和3年度越谷市授業改善・学校生活アンケート調査結果より 授業づくり(3)・・・「あてはまる」の回答 ▼4 「授業における8つのポイント」の活用を意識したが、実行については十分とはいえない。 【P】 ① 意図的・計画的な【書く】【話す】【発表する】活動場면을学習過程に取り入れる。 ② 基礎的な知識や技能定着のために、授業力向上を目指す。(国語科・算数科) ③ 全教科・領域において、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にした授業展開を行う。 ④ 子どもたちにとって学ぶ価値のある課題設定の検証、改善をする。 【D】 ① ③授業開始時に本時の「日付」「めあて」「課題」を明確に示す。 ➡本時で、「何を学ぶのか?」「何ができるようになるのか?」「何を解決するのか?」 明らかにしてから学習に入る。 ➡子どもたちにとって、「学ぶ」「できる」「解決する」「考える」価値のあるものであるか? ➡子どもたちのつづやきから課題を明示する。 A B C D ①②【書く】場面＝書くことを億劫がらせない指導 ・学習したことを確実に記録させる。 ・自分の考えや思いを記録させる。 ・友達の考えや思いを記録させる。 ①②【話す】【発表する】 ・【話す】【発表する】目的や、意図を子どもたちに知らせる。 ・説明の仕方等の進め方を指導する。 ➡頭の中のイメージをはっきりさせるために「考える過程」を記録することを指導する。 (まとめたものを記録するだけが、【書く】ことではない) ➡黒板に書かれたものだけではなく、そこから浮かんだ自分の「問い」「疑問」「思い」も書き込む。 ➡考えるためのメモや計算は、消さずに残す。 ➡学習支援ソフトロイロノート・大型テレビを活用する。 ②自己評価シートに8つのポイントで重点的に取り組むものを明記し、授業づくりに取り組む。 ②学習形態の工夫＊ ・大型テレビやタブレット、写画カメラ等の機器を使った指導法と授業展開を研究 ・小中合同研修による学習形態の共通理解を行う。 ・授業研究会で実践・評価・改善 ②8つのポイントを意識した授業改善を目指し、各教員の年次に合わせた研修とOJTの実施。 ③教材研究を中心にした各教科部会や学年会を行う。 ③めあてや課題に正対した、まとめと振り返りを行う。 ➡「何がわかったのか」「どのようにしたらできるようになったのか」「学んだことをどのように生かすのか」全教科・領域でまとめと振り返りを行う。 ④各学年・学団等で、単元ごとに「学習内容・学習課題」の、確認と共通理解を行うための学年会を設定する。 ④各教科・領域等の主任が中心となり、必要に応じて、研修を実施する。
---	---------------------------------------	---

4

学習過程の工夫と
授業における8つのポイントの活用

A

B

C

D

[C]

①② 管理職による教室訪問、各年次研修における研究授業等で検証。
→板書を見てどのような授業がなされているかが分かるかを確認し、よい点または改善したところがさらによくなる点について具体的に助言しフィードバックする。
→教科ごとのノートの決まりが統一できているかを確認し、各教科部会の主任へ指示伝達する。

②③8つのポイントについての検証。(自己評価シートとも連動) 実施時期(7月)(12月)(2月)

③④授業改善シートによる教師自身の自己評価。実施時期(7月)(12月)(2月)

教師用 教師の授業改善のための自己評価シート

教科名() 単元名()

項目	番号	教師用自己評価内容	評価(いずれかに○)
I 授業づくり	A1	学習過程や学習活動を工夫し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習を、各教科等の特性を踏まえて適切に設定している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A2	学習活動を生活と結びつけたり、意欲を伴った理解につながる体験活動の機会を多く設定している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A3	意見交換や発表の学習活動を取り入れ、結果的に伝え合い、自分の考えを深める機会を多く設定している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A4	算数、記述、描写等の学習活動を取り入れ、目的や必要に応じて、語や字、文章の内容を短くまとめる機会を多く設定している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A5	板書前面にもとに論理的な板書をかけ、書く意欲を促して自己を見つめさせ、自分の「考える痕跡」が見えるノート板書を繰り返し行っている。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A6	目的に応じて、ICT機器を効果的に学習活動に取り入れて活用している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	A7	児童・生徒が習得した知識・技能を活用させながら新たな学びをする知識・技能について展開して單元を構築する、学習内容及び指導方法の系統性や関連性を重視するなど、義務教育9年間を見通して16時間1単元を6期にわたって授業づくりをしている。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
評価規準			1 実施できなかった。 2 ほとんど実施できなかった。 3 ほぼ実施できた。 4 実施できた。 5 十分に実施できた。
II 心づくり	B1	学習の目的や内容の授業に応じて計画した体験活動を取り入れている。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	B2	相手の立場に立ち多様な考えを受け止めて聞き、状況に応じて意見を述べるなど、協調的な話し合い活動や交流する活動を取り入れている。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	B3	自由に意見が言い合え、間違えが認められるような児童生徒の心や学習の雰囲気気づきをしている。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
評価規準			1 実施できなかった。 2 ほとんど実施できなかった。 3 ほぼ実施できた。 4 実施できた。 5 十分に実施できた。
III 規範づくり	C1	子どもたちが安心できる環境、居心地のよい学習づくりのため、「チャーム言葉」、「新進隊等」、学習規律を遵守するように指導して指導している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	C2	子どもたちが安心できる環境、居心地のよい学習づくりのため、「次の日の学習用具を、前日に連絡帳で確認する」等、学習及び生活規律を遵守するように指導して指導している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
	C3	子どもたちが安心できる環境、居心地のよい学習づくりのため、「家庭学習の習慣化」、「提出物の期日厳守」等、生活規律を遵守するように家庭と連携し指導して指導している。	1 - 2 - 3 - 4 - 5
評価規準			1 実施できなかった。 2 ほとんど実施できなかった。 3 ほぼ実施できた。 4 実施できた。 5 十分に実施できた。

越谷市 教師の授業改善のための自己評価シート及び評価規準の目安

①②③④各種調査等による検証

・全国学力・学習状況調査

・埼玉県学力・学習状況調査

・越谷市検証テスト

5

板書計画の習慣化とノート指導の統一化

A

B

C

D

ブロックでの共通内容・取組内容など

○「課題」「日付」「教科書のページ」「単元名」を明示する。

○「まとめ」は、可能な時間には入れ、その際は「めあて(目標)」と対応する。

○校長、教頭が随時授業を参観し、板書を見てどのような授業がなされているかが分かるかを確認し、良い所をほめ、先生方の意欲を高めていく。

○板書に対応したノート指導、日付とページを書く、話し合い活動を記録するスペースの確保、6年時の国・算・理・社のノート形式を中学校に伝達する。

○教科ごとにノートの決まりを統一している。

5

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼板書計画作成に時間を要する教員が多くいる。 ▼授業における「8つのポイント」⑤「思いや考えを広げ深めさせる」板書とノート指導の工夫 ➡思考を可視化させる 【P】 ① 思考の流れがわかる板書づくりを行う。 ② 子どもたちの学びの「作戦基地」になるノートづくりを行う。 ③ 板書計画を確実に実施し、習慣化させる。 【D】 ①構造的な板書の共通理解を図る。(6月) ・子どもたちの思考の流れにそった板書 ・構造化すること 気づきや考え、賛成意見・反対意見、学習内容の比較、分類、整理、関連、統合等 心情等の変化、変容等 ①構造的な板書にする「いろは」の共通理解(6月) ・文字の大きさ、書く方向、矢印、線の囲み、色チョーク等 課題…青 まとめ…赤 ・上下、左右等空間の利用の仕方を検討 ・短い語句、図、表、写真を効果的に活用 ・心情曲線、イメージマップなど、子どもたちの思考をサポートできるような工夫 ・吹き出し→ヒントや今後の展開で考えを広げるために有効な言葉、子どもたちの反応 ①③ 参考になる板書計画・板書画像を「板書便り」で共有化する。(良い点を明記)(毎月1回) ①③ 板書に焦点を当てた研修を実施する。(6月) ② 自分の考えや思い・メモや計算・友達の発言等々、板書以外のことが記されている「お手本ノート」の提示。(学年、学級ごと) 【構造的な3面黒板】 ・学習課題→見通し→子どもの考え→話し合いの内容→まとめ等、流れがわかる ・要点や関連等が明確になる。 ・授業展開が明確になる。 ・子どもの考えを想定し、分類や整理等をあらかじめしておくことで、子どもの思考を生かして学習を深めることができる。 【お手本ノート】 ②思考の可視化を教員が具体的に理解するために、様々な思考ツールについて研修で体験する。(夏季校内研修) 例 ベン図(比較)・Xチャート、Yチャート、KJ法(分類)・コンセプトマップ(関連)ピラミッドチャート(構造化)・くまで図、お魚図、ウェビングマップ(多面的) ③板書計画の意義を共通理解する。(6月) ・5年次未満の教員は、特に力を高めたい教科・領域を中心に板書計画ノートの作成 ・単元を抽出して板書計画ノートの作成 ①②週案簿とあわせて、板書計画ノートづくりの推奨。(自己評価シートと連動➡教科、領域を決めて) ①②教科ごとのノートの決まりを統一する。 ①②子どもたちの学びの「作戦基地」=思考の可視化となるよう指導する。 →1学期中に各教科の主任が統一するポイントを提示し、学年ごとに確認する。 →6月の教科別部会(小中一貫3校合同)で各学校の取り組み内容を確認する。
---	--------------------	---

6	生活規律の共有化	【C】 ①②③管理職による教室訪問、研究授業等での検証。 ①②③授業改善シートによる自己評価。【No.4 再掲】 ・全国学力・学習状況調査 ・埼玉県学力・学習状況調査 ・越谷市検証テスト ブロックでの共通内容・取組内容など ○無言で隅々まで清掃 ○清掃終了時に振り返り ○靴のかかとをそろえる ○すすんで心からのあいさつをしよう。 ○給食配膳中は、自分の席に着き、読書や学習等をしながら静かに待っている(教室が静かに落ち着いており、ほこりがたたず、当番の配膳がスムーズに行われている)。 学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼個々の課題により教室に入れなかったり、約束が守れなかったりする児童が増え、学年や学校全体として共通行動が取れず、規律が乱れてきている。 【P】 ①「おはよう」学校の推進の継続 「お」…おもいやりをもち、 「は」…はいとへんじをします。 「よ」…よくまなび、 「う」…うんどうもがんばります。 まいにち「おはよう」と、元気に登校します。 ② 一人ひとりの「よさ」を認める指導・支援を行う。 ③「交通ルール」「放課後の遊び方」の徹底指導 ④清掃指導の徹底 【D】 ① 「心からのあいさつ運動」を継続し、あいさつ名人の紹介。 ② 個々の特性や発達段階に応じた指導・支援の充実。 ・課題を抱える児童への指導は教職員で共通理解、役割分担。 ③ 交通安全指導の実施(5月) 定期的な、教職員によるパトロール 校内での廊下歩行、室内遊び等の指導徹底 自転車は「がもん自転車マナー」の指導の徹底。 ④ 無言清掃「もくもくせいそう」 ・三角巾または紅白帽子をかぶる・毎回振り返りカードで反省 ⑤ 「靴箱のかかとそろえ」+「かかとをふまない」+「ぬぐときは、靴をそろえて置く」 *教室に行く前に、必ず担任が靴箱を確認する =生徒指導面からも児童の様子を把握 *家庭への『新しい学校生活様式』の啓発も引き続き行い、家庭、地域との連携をする。 *家庭においても同一歩調で声掛けをお願いします。 【C】 ・越谷市で実施するいきいき生活アンケートを実施。生活規律をチェックし、児童の生活改善の意識づけや教員の指導法の改善を、生徒指導委員会を中心に検討・実行する。 ・生徒指導部の教員による、清掃活動時の指導と評価を毎日放送で行う。 ・管理職や担任外の教職員が廊下歩行や階段の昇降等、共通理解行動について積極的な声かけをする。(評価や指導だけではなく褒める、見届ける) ・越谷市授業改善・学校生活アンケート
---	----------	--



7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など 共有した内容を簡潔に記入 ○南中学校区 3 校共通のきまり ・名前を呼ばれたら「はい」という返事 ・整列時のハンドサイン ・授業のあいさつ 起立・礼・ 「お願いします・ありがとうございました」 ・授業中の姿勢や規律 ○生徒が落ち着いて学習に取り組むよう、丁寧な指導を実施していく。  【正しい起立】 4校共通のきまり 生活のきまり ☆返事の仕方 名前を呼ばれたら「はい。」と返事をして立つ。 ☆整列時のサイン グー 座る パー 立つ チョキ 前へならえ ※一本指 注目(中学校で用いる) 整列するときは、サインをしっかり見ること! ☆そろいのきまり -もくもく(口を指して)・すみずみ(すみずみまでいぬい)そろいをする。 -そろいの終わりに、しっかりときたが振り返りをする。 ☆くつをそろえた くつのかかとをそろえてキレいに並べる。 授業のきまり ☆あいさつのしかた ～授業の始まり～ ① 起立 ② 礼 ③ 「お願いします。」と大きな声で言う ～授業の終わり～ ① 起立 ② 礼 ③ 「ありがとうございました。」と大きな声で言う ☆座り方 いすにすわるときは、 ① 机の下に足をきこんど入れる。 ② 足の裏をゆかにつける。 心をこめて みんなが あいさつしよう  学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼「蒲生南っ子の約束」に基づき、共通行動の徹底を目指したが、教職員の理解も含め十分とはいえない。 A 【P】 B ①3校共通の約束とあわせて、「蒲生南っ子の約束」の内容確認・共通理解・共通行動 ②学習に向かう心づくりを行う C ③学習を進めるための基礎基本の指導方法の確立(若手教員を中心) D 【D】 ①毎月の生活目標に関連付けて「3校共通の約束」「南っ子の約束」の指導方法を確認する。 ②学習の用意等は、家庭の協力も必要であるため、家庭との連携も強化する。 ②座り方・・・児童の成長にあった、机と椅子の確認を学期ごとに行う。(学期ごと) ②姿勢や座り方等は、保健主事を中心に身体への影響について指導を行う。(2学期) 校内研修や学年会等において「生きる力を育む越谷教育」を活用する。 ①管理職や担任外の職員が授業時間や学校生活での「蒲生南っ子の約束」や「毎月の生活目標」の状況や児童の実態を適宜把握する。 【C】 ・生徒指導部会で、月ごとの生活目標等の評価を必ず実施する。 ・管理職の授業観察シートにより学習規律や指導法をチェックし、改善を助言する。 ・管理職や担任外の教職員が見届けた「蒲生南っ子の約束」や「毎月の生活目標」の状況や児童の実態を学年や学級に伝え、さらなる意欲向上につなげる。 ・毎月の生徒指導部会で、相互確認をおこない、指導の重点化を図る。 ・越谷市授業改善・学校生活アンケート ・いきいきアンケート  【2列で教室移動】
---	----------	---

8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)		<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ○家庭学習の手引きを作成し、家庭学習の進め方を配付、指導する。 ○中学校教員の出前授業の時に、中学校教員から中学校の学習や家庭学習の大切さについて児童に話をする機会を設ける。 ○令和4年度取組 ・家庭学習の手引きの見直し ・家庭学習の定着を図るための方策 ・家庭学習ノートの工夫
		A <u>学校独自の内容・取組</u> 【今年度年の課題】 ▼自分の力で、家でも取り組める課題を提示する必要がある。 B ▼自学自習ソフト e ボードの使用率が停滞してしまっている。 【P】 ①誰もが取り組める「家庭学習の手引き」作成・配布・活用 ②自学自習ソフト e ボードの活用率を向上させる。 C D 【D】 ①家庭学習方法の各学年「お手本・見本」などコーナーを職員室前に設け、児童に啓発を図る。 ①懇談会で家庭学習時間確保を啓発する。 ①学級通信での「家庭学習」の方法を紹介する。 ②保護者に自学自習ソフト e ボード活用の協力依頼を配布する。 例:「算数科」・「漢字」の取組 ・「算数科」授業後の宿題に自学自習ソフト e ボードテキストを活用する。 ・宿題後のテキストを見直し、復習テストを行う。 ・「漢字」練習の宿題として復習テストと見直しを行う。 【C】 ・学校評価による取組の検証をおこなう。	

(3) 学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
9	各種学力調査の分析	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ○「県正答率と比較して課題のある問題」について分析していくと、教える教員自身が苦手な項目と「課題のある問題」が一致して浮かび上がってきた。令和4年度は小中教員自身がこの苦手項目の克服に重点を置いて教材研究を行っていく。

9	各種学力調査の分析	<u>学校の分析結果</u> <u>全国学力状況調査(6学年)</u> ○国語科 【問題点】 ▼課題のある項目 ・学習指導要録の内容 思考・判断・表現力 C 読むこと ・要約をしたり、文章と図表を結び付けて情報を書き出したりすることに課題がある。 ▼問題形式 記述式 ▼無回答率の高かった項目 「配当漢字を文章のなかで正しく使うことができない」 ○算数科 【問題点】 ▼無回答率が高かった項目 「割合に関する記述を求める問題」 ▼基礎的な知識や技能の定着に課題がある。 ▼割合に関する記述の無回答率が高かったが、その他は、自分の考えを書き表そうとしている。 <u>埼玉県学力状況調査(4学年・5学年・6学年)</u> ○国語科 【問題点】 A ▼文章の読み取りができていない。 「読むこと」の問題が、後半にあったため、時間内に取り組むことができない児童が多い。 B ▼言語事項では、文脈に即した言葉を選んだり、文を組み立てたりすることの理解に課題がある。 <u>令和3年度越谷市検証テスト</u> C ▼特に、算数科の活用問題で、未記入の回答が多い。 基礎的な計算力についても課題があり、習熟を図り定着させることが必要である。 D 国語・算数ともに活用する力については個人差が大きく、十分身につけているとはいえない。 【P】 ①基礎的な力の定着。 ②夏の校内研修で、教務主任を中心に各種学力調査の分析を実施し、身に付けさせるべき力の把握。 ③『考えよう』『解いてみよう』等の、「課題に向かう姿勢づくり」。 【D】 ① 基礎基本の学習内容を丁寧に指導する。 ① 少人数指導を、教務主任や教頭が入り、実施。 ① 「考える」素地づくりを、行う。 ➡特別支援の国語の教材を活用し、学習課題に向かう素地をつくる。 ② 教科書の問題と類似する、「全学調」「県学調」「検証テスト」等の過去の問題を、実施し、教科書に活用した内容を明示する。 ② 各検証テストの問題を年間指導計画の該当単元に落とし込む。令和3年度の問題を明記。 ③ 「校長先生からの挑戦状」の実施。 ➡解けそうで解けない算数の問題を「校長先生からの挑戦状」として、子どもたちが解く機会を設ける。 ③ 「まなびタイム」の内容を精選し計画的に実施する。 ①②③各単元の学習指導において、各教科間において似ている内容を関連づけて指導する。 【C】令和4年度各検証テスト【No.4 再掲】
---	-----------	--

10	系統図の活用	ブロックでの共通内容・取組内容など ○系統図の活用状況(箇条書き) ・備考欄に単元名や既習事項を挿入した年間計画を作成する。 ・小中で教科会を実施し、年間計画の内容について確認の場を設ける。 ・『算数数学・授業改善チーム』では、系統図を作成し、各校各学年の学習内容や学習の到達度を意識し、適切なねらいを立てた授業が展開できるようにする。 ・『教科別授業研究チーム』で、各教科の系統図の作成を進める。 ・3校合同研修会教科部会で活用し、中学校につながる効果的な指導について話し合い、実践につなげていく。 学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼研究授業等では系統を意識することができたが、日々の授業の中で、全体を見通して系統性を意識していくことが課題である。 【P】 D ①系統図を使った学習過程の確認。 (小低→小中→小高→中学) ②系統を意識する表示の工夫。 【D】 ①系統図の見直し。(1学期) ②各学年の系統を明確にし、教科書に付箋等で、下学年や次学年での学習内容を書き込む。(通常) ②全教科・領域において、系統を踏まえた指導を実施する。(夏休み) ・理科→薬品、実験用具 等の系統図を理科準備室に掲示 ・家庭科室→被服、食物等の実習関係の系統図を家庭科室に掲示 ④ 職員室の掲示板に算数と国語の系統図を掲示し、いつでも見られるようにする。 【C】授業改善シートにて検証【再掲】
11	総合的な学習の時間を核とするカリキュラム	ブロックでの共通内容・取組内容など ○蒲生小と蒲生第二小で総合的な学習の時間連絡会を立ち上げ、蒲生学園9年を通すカリキュラム(案)に基づき、授業を実験的に実施する。 ○今年度の実践を中学校教員に公開し、授業を見てもらう。 ○次年度以降は、中学校を交えた組織を立ち上げ、9年を通すカリキュラムの準備を始める 【今年度の課題】 ○授業中の調べ学習については、昨年度までは、インターネットに頼ることが多かった。 【P】 A ①教員に総合的な学習の時間の趣旨を理解させ、カリキュラムマネジメントについて周知する。 B ②9年間を通すカリキュラム作りの準備を行い、総合的な学習の時間を実験的に実施する。 【D】 C ①年度当初に、総合的な学習の時間に関する研修会を実施し、趣旨やカリキュラムマネジメントについて周知する。 D ②各学年で実施できる内容から実験的に実践を行う。特に、地域活用やゲストを探し関わってもらう部分については、相当な時間や調整が必要なため、管理職が一緒に入り、授業づくりを行う。 ③夏の研修で小中9年間の学びを意識した教育課程の編成にについて、3校で共通理解を図りながら作成を進める。 【C】 ①管理職が授業に参加をすることで進捗状況や実施による効果等を検証する。 ②夏季休業中教員に対し、「総合的な学習の時間」についてのアンケートを実施し、指導に対しての教員の現状を把握する。



【算数・量と測定の系統図】

ねらいを定めて条件に応じて書く

12

ブロックでの共通内容・取組内容など

○【書く】活動を重点に、5行作文や説明文(学習のまとめ)を、全教科に取り入れる。

学校独自の内容・取組

【今年度の課題】

▼短作文の内容が恒常化してしまい、書ける児童と書けない児童の2極化が課題となっている。

学校独自の内容・取組

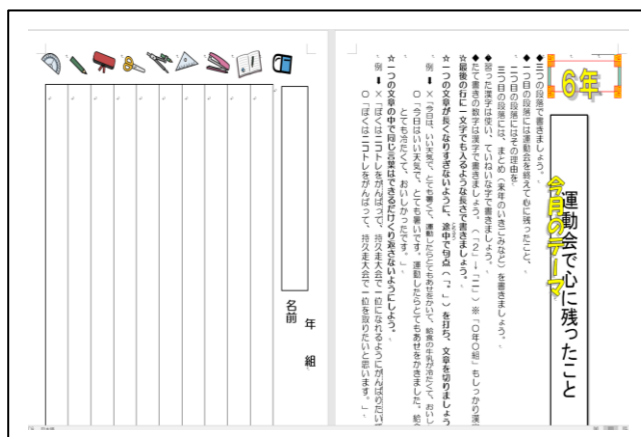
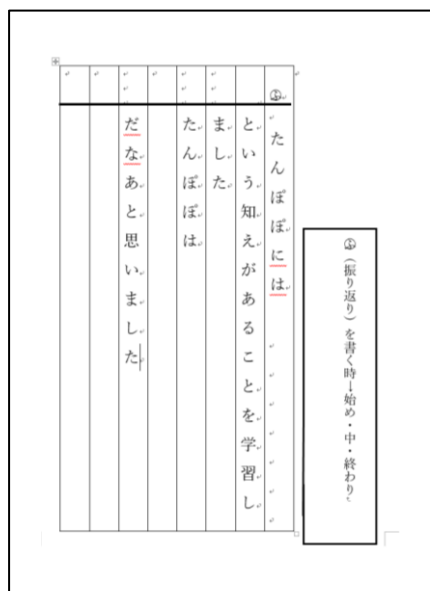
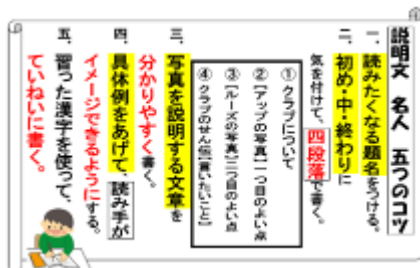
- ・朝の日課に「学び国語」「学び算数」を位置づけ、「書く力」「計算する力」を育成する。
- ・日々の授業の中で「書く」時間を設定し、「書く力」を育成

【P】「書く力」の育成

- ・全教科で「書く活動」を位置づける

【D】

- ・朝の日課に「学び国語」「学び算数」を位置づけ、「書く力」「計算する力」を育成する。
- ・日々の授業の中で「書く」時間を設定し、「書く力」を育成
- ・筋道をたて、自分の意見や考えを書く
→学習過程と学習形態を工夫する。
- ・書いた作文を発表する。
- ・よい作文を掲示する。
- ・書いた内容を覚えて発表する。
- ・自分の考えを「論点を明確」に説明できる。
- ・特別支援の国語 教材を活用し、【書く】の素地を作る。
- ・書けない児童への補助シートを国語部会で作成する。
→ノート指導を統一する。



【補助シート】

【C】管理職の日々の教室訪問にて【書く】力の見届けを行う。

・令和4年度各検証テスト【No.4 再掲】

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
13	分析 越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> 全国学力・学習状況調査の質問紙結果から、南中学校の生徒は自己肯定感が高い傾向にある。 <u>学校の分析結果</u> 令和3年度越谷市授業改善・学校生活アンケート結果より ○自分には、よいところがあると思いますか。 ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 ○難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。 ○生徒指導部会を中心にアンケート結果について分析、考察を行い、職員で共通理解を図った。 → 肯定的な回答率が多くなっている。 自己肯定感の高まりがみえるのは、教師の意図的な声掛けの現れである。一方で、学習に落ち着いて取り組むことができないと考える児童がいる。大きな課題である。学年、学級によっても結果の開きがある。学年で指導すべきことを共通理解し、同一歩調で進める必要がある。 →いじめの認知について理解が不十分な児童がわずかではあるが、正しい認識のもと、いじめは許さないという風土を醸成する必要がある。
14	自己肯定感を授業の中で高める取組	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ○令和3年度は児童生徒の自己肯定感の高揚を図るため【書く】【話し合う】【発表する】場面を取り入れた授業を実施。特に【書く】活動を重点に、5行作文や説明文(学習のまとめ)を、全教科に取り入れる。相互授業参観と研究協議会を実施。 <u>学校独自の内容</u> 【今年度の課題】 ▼学習の定着に課題のある児童は、自分の考えに自信を持つことができない傾向がある。 ▼質問(12) むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。(自己有用感)について、児童と教師の意識の差が大きい。 【P】授業の中で ①「自己存在感」 ②「自己決定の場」 ③「共感的人間関係」を位置づける。 【D】 ①②③学校生活を充実させるため、授業の中で子供たちには「人の話を思いやりをもって聞く」「自分の考えと比較しながら聞く」「積極的に発表する」を指導する。教師は「間違えてもよい雰囲気をつくる」「小グループでの話し合いや伝え合いを入れる」「発言やつづきに対して肯定的な言葉かけをする」「積極的に褒める」を行う。 ②③支援担当訪問での指導を生かし、校内研修会で活用。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実践研究授業。→学力向上へ ①②子どもひとり一人に、自分自身で「できた」「進んだ」「わかった」と思える学習を、意図的に実施する。 ①②③校内研修で教育相談主任が中心となって「自己肯定感」について共通理解をはかり、適切な支援について確認する。 →教師と児童の意識の差について、SST を取り入れた事例研修を行い、差についての教師側の認識を高める。 【C】越谷市授業改善・学校生活に関するアンケート 質問(10) 自分には、よいところがあると思いますか。 質問(11) 先生は、あなたのよいところをみとめてくれていると思いますか。 質問(12) むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。 実施回数 3回 実施時期(6月)(9月)(2月)

15	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	ブロックでの共通内容・取組内容など ○『自己肯定感』を生み出す『非認知能力』を高める感動的な『体育的・学校行事』『文化的な学校行事』、主体的・対話的で学びを深める『総合的な学習の時間』『生活科』に全職員でいていねいに取り組んでいく。 学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼学習の定着に課題のある児童は、自分の考えに自信を持つことができない傾向がある。 ▼質問(12) むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。(自己有用感)について、児童と教師の意識の差が大きい。 ▼教室に入りにくい児童へのサポートを組織的に行う必要性がある。 【P】 ①「おはよう」学校の継承【再掲】 「お」…おもいやりをもち、 「は」…はいとへんじをします。 「よ」…よくまなび、 「う」…うんどうもがんばります。 A まいにち「おはよう」と、元気に登校します。 B ②児童一人ひとりが、自分で目標を持って、学校生活を送れるような支援をおこなう。 C 【D】 ①代表委員会による「心からのあいさつ運動」活動を継続する。 ①あいさつ名人の紹介。 ②「稲づくり」「花の育成」「ビオトープ管理」「委員会活動」を通して、学校への『居がい』意識を高める。 ②「校長先生からの挑戦状」で、算数チャレンジを推奨し、『学びがい』を育てる。 ②児童一人ひとりに、目を向け、耳を傾け、ほめる言葉のボイスシャワー支援。 ②生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部の3部会による困り感のある子どもたちへのサポートチームの確立。 【C】越谷市授業改善・学校生活に関するアンケート 質問(10) 自分には、よいところがあると思いますか。 質問(11) 先生は、あなたのよいところをみつめてくれていると思いますか。 質問(12) むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。 実施回数 3回 実施時期(6月)(9月)(2月)
----	---------------------	--

「あいがどう かもうみなみよ
すばらしい」

⑥ あいがどう

⑦ かんぱったね

⑧ うー回 やってみて

⑨ うれしいね

⑩ みんなにおしえてね

⑪ なるほどね

⑫ みちがえるほど～だね

⑬ おかったね

⑭ すばらしいね

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
16	児童生徒間の交流 (行事・学習・作業など)	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ★新型コロナウイルス感染症の状況や授業実施最優先を考慮に入れながら柔軟に対応していく。 ・3つの約束集会(生徒会が小学校の朝会で、低学年にもわかるよう劇で伝える) ・小中合同避難訓練 ・PTA バザー開催宣伝ポスターの交流 ・クリーンパトロール ・新入生説明会(校長からの教育内容説明) ・中学校社会体験チャレンジ ・出前合唱発表会 学校独自の内容 【今年度の課題】 ▼昨年度は感染拡大の影響で交流ができなかった。今年度は感染状況を鑑みて、活動を計画する。 【P】(仮称)蒲生学園構想に向けて3校で共通理解、連携体制を構築する。 【D】・新型コロナウイルス感染症予防を鑑み、交流活動の見直しを図る。 ・作品交流 ・オンラインによる交流 児童同士、生徒と児童、中学校教員と児童 ・中学校から案内 DVD(6年生) ・蒲生学園新設に向けて、蒲生小学校との連携を深める ・あいさつ運動のポスター交流 ・小学校に南中学生「書初めコーナー」を設置し作品を展示。 ・小学校に南中学校の行事写真展示コーナーを設置。 ・手紙、ビデオレター、オンライン等できる方法を考えつながりが持てるようにする。 【C】 ○10月/2月 6年生児童にむけたアンケート 「中学校進学に向けて不安はありますか？」
17	教員間の交流 (合同部会、合同研修、相互授業など)	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ○令和4年4月11日(月):小中一貫教育推進委員会(校長、教頭、主幹教諭、教務主任) ○令和4年4月22日(金):小中一貫教育チーフ会議(教頭、主幹教諭、研修主任、各部会チーフ) ○令和4年4月26日(火):小中一貫教育第1回4校合同研修会(場所:南中学校) ○令和4年6月中旬:小中一貫教育6部会 ○令和4年7月上旬:南中・相互授業参観と各部会(南中学校 14:00～) ○令和4年8月下旬:小中一貫教育第2回4校合同研修会(場所:南中学校 9:00～) ○令和4年10月:蒲生南小・相互授業参観と各部会 14:00～ ○令和4年11月:蒲生小・相互授業参観と各部会 ○令和4年12月中旬:小中一貫教育チーフ会議(教頭、主幹教諭、研修主任、各部会チーフ) 南中 15:30～ ○令和5年1月:蒲生南小・相互授業参観と各部会(南中 14:00～) ○令和5年2月:小中一貫教育6部会(紀要の編集作業:南中学校 15:30～) 学校独自の内容・取組 【今年度の課題】 ▼昨年度は感染拡大の影響で交流ができなかった。今年度は感染状況を鑑みて、活動を計画する。 【P】①本校の課題である算数科に視点をあて、数学科の中1ギャップを解消する。 【D】①系統図に基づいて数学科の視点から算数科に求める学力を育成する方策を研究する。 ①「算数科」研究授業を実践し主体的な学びを通して「書く」力を育成する。 ①南中学校より提供された蒲生南小学校の算数分析表をもとに学力の向上を考える。 ・校内研究授業を授業改善に生かす。①校内研修会実施(研究協議・成果と課題・指導改善・実践) 【C】令和4年度越谷市検証テスト

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
18	PTAとの交流	A B C ☒ D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・校長、教頭、教務主任、PTA 本部役員による定期的な話し合いや懇親会。 ・校長、教頭、教務主任、おやじの会による定期的な話し合いや懇親会。 ・バザー、学校応援団、PTA 活動への教員の積極的な参加。 ・おやじの会による体育祭、バザーの防犯パトロール。 ・ブロック内小中 3 校 PTA 本部と管理職による懇親会。 <u>学校独自の内容</u> 【今年度の課題】 ▼昨年度は感染拡大の影響で実施できないものが多かった。今年度は感染状況を鑑みて、活動を計画する。 ○連絡・調整を定期的に PTA 本部役員とおこなった。 【P】 ①今まで実施してきた内容を、精査する。 ②できる限り子どもたちのために活動を進める。 【D】 ①年間の活動内容を洗い出し、児童にとって必要なものを確認する。 ②学校応援団「がもなんの会」の活動(学期1回) ・人数を限定して、短時間で実施 ②環境整備ボランティア作業。 ②地区センターの防犯パトロール、スポレク推進委員会の活動等に積極的に参加。 ②学校応援団や見守り隊の名簿を作成、周知し、職員の意識を高める。 ②登下校時の職員の参加を計画的に実施する。② 【C】学校評価 地域とのつながりの項目

(7)ブロックオリジナル

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
19	令和8年度「蒲生学園(仮称)」開校	A B ☒ C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ○令和8年度「(仮称)蒲生学園」開校に向けての取組を推進する。 <u>学校独自の内容</u> 【今年の課題】 ○令和8年度「(仮称)蒲生学園」開校に向けての教職員の意識を高める必要がある。 【P】 ①令和4年度の蒲生小学校開校に伴う、南中とのかかわりについて、小学校間の連携を深める。 ②蒲生小学校・蒲生第二小学校の合併にむけて、新たな教育課程編成をおこなう。 【D】 ①小中一貫教育合同研修会で、具体的な推進状況について小中全職員で共通理解を深める。 ②令和8年度「(仮称)蒲生学園」開校に向け高い意識を持ち、教育課程編成に携わるようにする。 【C】 学校評価

20	道徳教育の充実	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> <u>南中ブロックでは、道徳教育を推進している。道徳科は、小学校1年生から中学校3年生まで系統的に学習することができる。今年度、夏の合同研修の中で、道徳に関する研修を実施する。</u> <u>学校独自の内容</u> <u>【今年度の課題】</u> <u>児童に実施した質問紙調査やアンケートの結果を見ると、自己肯定感の高揚、ねばり強さや勤勉性の育成、規律ある態度の定着に課題が見られた。よりよく生きようとする道徳性を養う道徳教育を、学校全体で推進していく必要がある。</u> <u>【P】</u> <u>○道徳主任と道徳教育推進教師を中心に、道徳教育に関する以下のような取組を通して、「多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力」を育成する。</u> <u>①「主として自分自身に関すること」の内容に焦点化した授業研究会を、年3回実施する。</u> <u>②教材の資料づくり、教材分析、板書計画づくり、道徳のノートづくり、道徳コーナーを設置する。</u> <u>③年2回の児童の意識調査の実施と分析、考察を行う。</u> <u>【D】</u> <u>①文部科学省教科調査官の先生による、「考え議論する道徳」の実践に向けた講演会（5月）</u> <u>②本校教員による、初任者研修師範授業の実施（6月）</u> <u>③第1回授業研究会（7月）</u> <u>④学習指導要領執筆者の先生による、教材分析の仕方に関する講演会（8月）</u> <u>⑤第2回授業研究会（10月）</u> <u>⑤ 第3回授業研究会（12月）</u> <u>【C】</u> <u>①児童の道徳性に係る意識調査（12月）</u> <u>②道徳の授業を管理職が授業観察し、実施状況を把握する（年間）</u> <u>③学校評価</u>
----	---------	--